

## 学位論文の要旨

|             |  |
|-------------|--|
| フリガナ<br>氏 名 | タムラ マサフミ<br>田 村 正 文                                    |
| 専 攻<br>入学年度 | 宮崎大学大学院農学工学総合研究科博士後期課程<br>資源環境科学専攻<br>(西暦) 年度 ( 月 ) 入学 |
| 学位論文<br>題 目 | 地域農業資源の付加価値形成ならびに事業化に関する社会・経営学的考察                      |

【論文の要旨】（和文の場合 1,200 字程度、英文の場合 800 語程度）

第 1 章で、本論文の社会的背景の概略を述べ、研究の目的を明確にする。

第 2 章においては、単一の地域内における伝統的な産業や工芸品の制度、事例研究について述べる。とりわけ、地域内での伝統的な産業つまりは伝統工芸品、地場産業を取り上げ「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」の特徴、地場産業、地域資源の定義、東北地方における伝産法に認定されている事例の分析を行う。

第 3 章では、地域間を跨いで隣接する地域とのいわば「越境的な」地域資源の加工を通じた地域間分業について考察する。ここでの事例は、古くから形成されてきた青森県と北海道との青函交流圏における原材料供給と加工技術の地域間分業、新たなビジネスの誕生、地域製品のブランド化について考察する。

第 4 章は、地域間分業をより広範囲に行っている事例として、青森県産の農産品の焼酎への（委託）製造加工の事例について見ていく。青森県では、ニンニクや長芋といった作物の収穫量が全国屈指であるものの、規格外品などについては地域内で漬物などの食品に加工するにとどまっていた。しかしながら宮崎県の酒造メーカーによる焼酎への加工を通じて新たなチャンネルが開発されたとみることができよう。本章においては、地理的に離れた地域間での分業と地域間技術移転について検討する。さらには販路の課題と情報化時代の販路の新規開拓の可能性について見ていく。

第 5 章は企業誘致や地域内企業とのコンソーシアムに代表される、地域内での新たな産業化と企業間での提携について検討する。先進的事例である徳島県の神山町における IT の集積とその企業から独立した人々による起業や異分野での起業について、青森県八戸市における IT 系ならびに市内中心部へのテレマーケティング企業誘致、秋田県における航空宇宙産業分野でのコンソーシアム形成からみた、地域内集積と地域産業について考察する。さらには本章では IT 系（情報系）企業、航空機産業コンソーシアムを現状と課題を検討した後、農水省が推進している農林水産業発イノベーションについて検討する。

第 6 章では、地域内の人材育成という観点から、地域内における教育機関について見ていく。近年では地方から都市部への人口流出（人口の社会的減少）が著しく地域内における雇用の場の供給などが課題であるともいえる。しかし、少子高齢化を迎えた各地域において特色のある教育や地域活動を取り入れた教育カリキュラムを整備し、全国的に生徒・学生を募集している例も数多い。さらには農業高校における地域資源に関する単元に着目し、地域内でのイノベーション創出と事業化について見ていく。したがって本章では、教材としての地域資源という位置づけから考察する。

第7章においては、総合考察として、第2章から第6章までの議論の内容について考察し、本論文としての結論を導く。あわせて本論文における今後の課題について述べ、今後の本研究の継続の方向性について示す。

- (注1) 論文博士の場合は、「専攻、入学年度」の欄には審査を受ける専攻のみを記入し、入学年度の記入は不要とする。
- (注2) フォントは和文の場合 10.5 ポイントの明朝系、英文の場合 12 ポイントの times 系とする。
- (注3) 学位論文題目が外国語の場合は日本語を併記すること。
- (注4) 和文又は英文とする。